

News Letter 医師・研究者キャリア支援センター

Vol. 16 2015/3/25

医師・研究者キャリア支援センター就業継続支援アンケート



Q1. 性別を選んでください。

【有効回答数: 165 件】

選択肢	回答数	比率(%)	選択肢	回答数	比率(%)
男性	100 件	60.6%	20代	5 件	3%
女性	65 件	39.4%	30代	76 件	46.1%
			40代	54 件	32.7%
			50代以上	30 件	18.2%

Q2. 年齢(年代)を選んでください。

【有効回答数: 165 件】

II. アンケート 個々の意見のまとめ

- 1) 学童保育支援への要望
- 2) 男性・女性の役割に関する意識の問題の指摘
- 3) 職場の問題 (周囲の理解、やりがいのある仕事かどうか、男性医師の育児参加、マンパワー不足、仕事が多いなど)
- 4) 医師の勤務形態について (フレックス制、在宅勤務などの多様な勤務形態・長時間労働を是正するため、カンファ等を含め 17 時までに仕事が終わるシステムの構築)
- 5) 育児だけでなく介護のための制度、独身者、一般医師、医師以外の研究者の『短時間勤務制度』の検討も必要、女医のみ支援では不公平感があるとの指摘
- 6) 保育ルームのシステムの改善要望 (夜間、土日の預け、急変時の緊急預け、など)

III. アンケートからみた、今後改善が必要となる施策

- 1) 『短時間勤務制度』、『育児短時間勤務制度』、保育ルーム、その利用法についての認知度が低かったので、周知を徹底する。
- 2) 学童保育の充実度を検討する。
- 3) 夜間、土日、緊急時の保育について、改善の余地について検討する。
- 4) 医師のみでなく研究者にも『短時間勤務制度』を拡大するかどうか検討する。
- 5) 育児だけでなく、介護や独身者、一般医師にまで『育児短時間勤務制度』を拡大するかどうか検討する。
- 6) 職場環境の改善、周囲の医師意識、男性・女性の役割に関する意識の変容のため、講演会などを積極的に活用していく。
- 7) 医師の勤務形態を考えるのは難しいが、女性医師のみでなく医師全体のキャリア支援を考えるうえでは、医師全体の勤務をうまくコントロールしていくことが必要。病院全体として、長時間労働の是正やフレックス制などの多様な勤務形態について検討する。

※1 『短時間勤務制度』

- Q6. 就業継続支援として制度化されたものに、小学校就学前の子を養育する医師の勤務の特例措置の制度があります。半日勤務4時間を 1コマとして計算し、週 5コマ、20 時間勤務するという制度です。この制度を知っていましたか。

【有効回答数: 165 件】

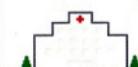
選択肢	回答数	比率(%)
知っていた	74 件	44.8%
知らなかった	81 件	49.1%
どちらともいえない	10 件	6.1%

※2 『育児短時間勤務制度』

- Q9. 育児休業の制度に、今までの子を養育する職員は、申請することにより、1日の勤務 8 時間のうち、1日を満てて 30 分単位で最大2時間を超えない範囲で勤務したいことができる『育児短時間勤務』の制度がありますがこの制度を知っていますか。

【有効回答数: 161 件】

選択肢	回答数	比率(%)
知っていた	64 件	39.8%
知らなかった	87 件	54%
どちらともいえない	10 件	6.2%



医師・研究者キャリア支援センター 内線 2448

Email: career-support@ichi.ac.jp

保育ルーム「あいりす」内線 2445

(直) 0285-58-7572